

輸出事業計画

申請者名：株式会社テロワール・アンド・トラディション・ジャパン

品目：牛肉（日本短角種、黒毛和種）

1. 輸出における現状と課題

現在の輸出実績：空輸を活用して月平均8便、2025年度で約1億3,000万円（全体）を輸出しています。

現在の商流：フランスの日系企業（KIOKO等）を主要取引先としたBtoBの卸売が中心です。

品質・規格の乖離：現地は赤身肉やサステナビリティを重視しますが、日本からの輸出は5等級のロイン系（サシ重視）のブロック肉に偏っており、現地の嗜好や小分け（スライス・ひき肉等）ニーズと乖離しています。

厳格なEU規制：成長促進目的の抗生剤の不使用証明や、森林破壊防止規則（EUDR）に基づく出生からと畜までの全飼養地の位置情報追跡（トレーサビリティ）が未確立です。

ローカル市場の未開拓：インフレ等による日系レストランの減少もあり、現地フランス人が利用する非日系の高級精肉店やビストロを開拓できていません。

2. 輸出事業計画の取組内容

現地嗜好への最適化：フランスの需要に合う「短角牛」や「経産牛（再肥育）」を戦略商材とし、現地でのスライス、ステーキカット、ひき肉等への小分け加工体制を構築して端肉を有効活用します。

EU規制完全準拠の体制構築：国内農家と連携して全飼養地の住所情報を100%トレースし、薬剤不使用の申告と情報利用の同意を一括取得する仕組みを作ります。

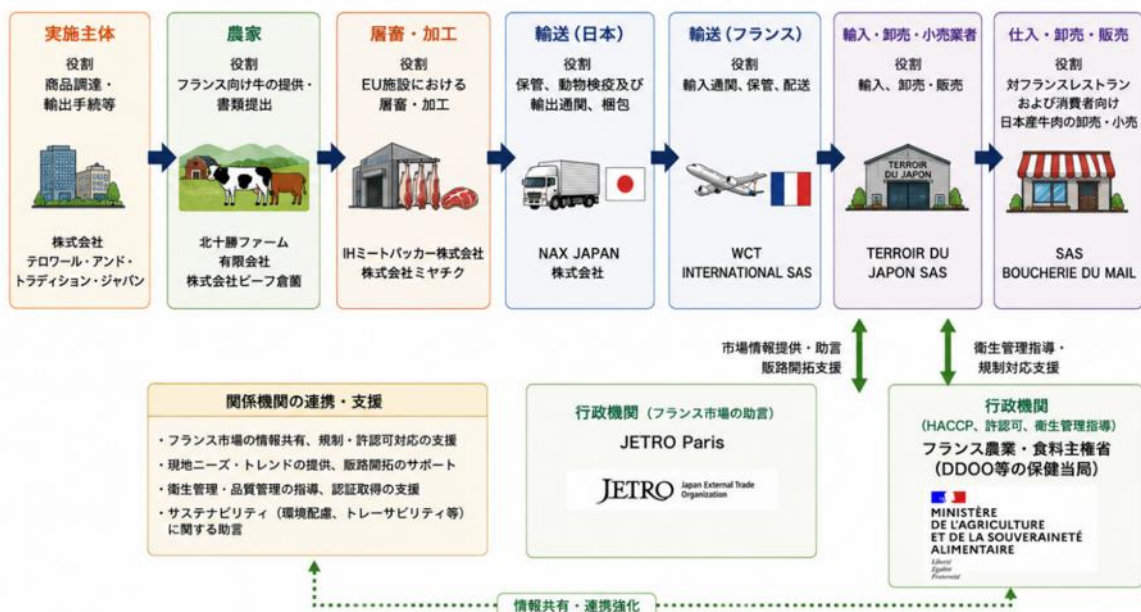
適合農家とのネットワーク強化：EU衛生・環境基準を日常的にクリアできる特定農家との安定的な集荷ルートを確認します。

非日系市場の開拓：現地の有力食肉卸業者と連携した試食商談会の開催や、現地の高級精肉店と連携した「日仏コラボメニュー提案」を推進します。

3. 輸出事業計画の実証と見直しを行うためのPDCA実施体制

新しい商流構築に向けた実施体制図

日本の生産者・加工施設とフランス現地の卸売・小売業者をつなぎ、フランス市場に最適な日本産牛肉を安定的に供給する体制を構築する。



各関係者が緊密に連携し、規制遵守・品質向上・市場ニーズに合致した商品提供を実現し、フランスにおける日本産牛肉の取扱拡大を目指す。

輸出事業計画

申請者名：株式会社テロワール・アンド・トラディション・ジャパン

品目：牛肉（日本短角種、黒毛和種）

4. 輸出目標額

輸出先国: フランス

対象品目: 牛肉（日本短角種、黒毛和種）

現状（令和7年度 / 令和8年3月期）：14,766千円（1,296 kg）

目標年（令和11年度 / 令和12年3月期）：45,000千円（3,800 kg）